

# 労働機能障害と健康経営

産業医科大学  
公衆衛生学教室  
藤野善久



- 7つの質問項目
- 疾患非特異的
- 客観性

いつもより疲れた。  
社交的に振る舞えなかった。  
仕事を中断することが多かった。

<http://www.uoeh-u.ac.jp/kouza/kosyueis/wfun/>

# 労働機能障害（働く力）を測定する意義

## 従来の産業保健

- 安全配慮
- 業務起因性
- 離職・在職死

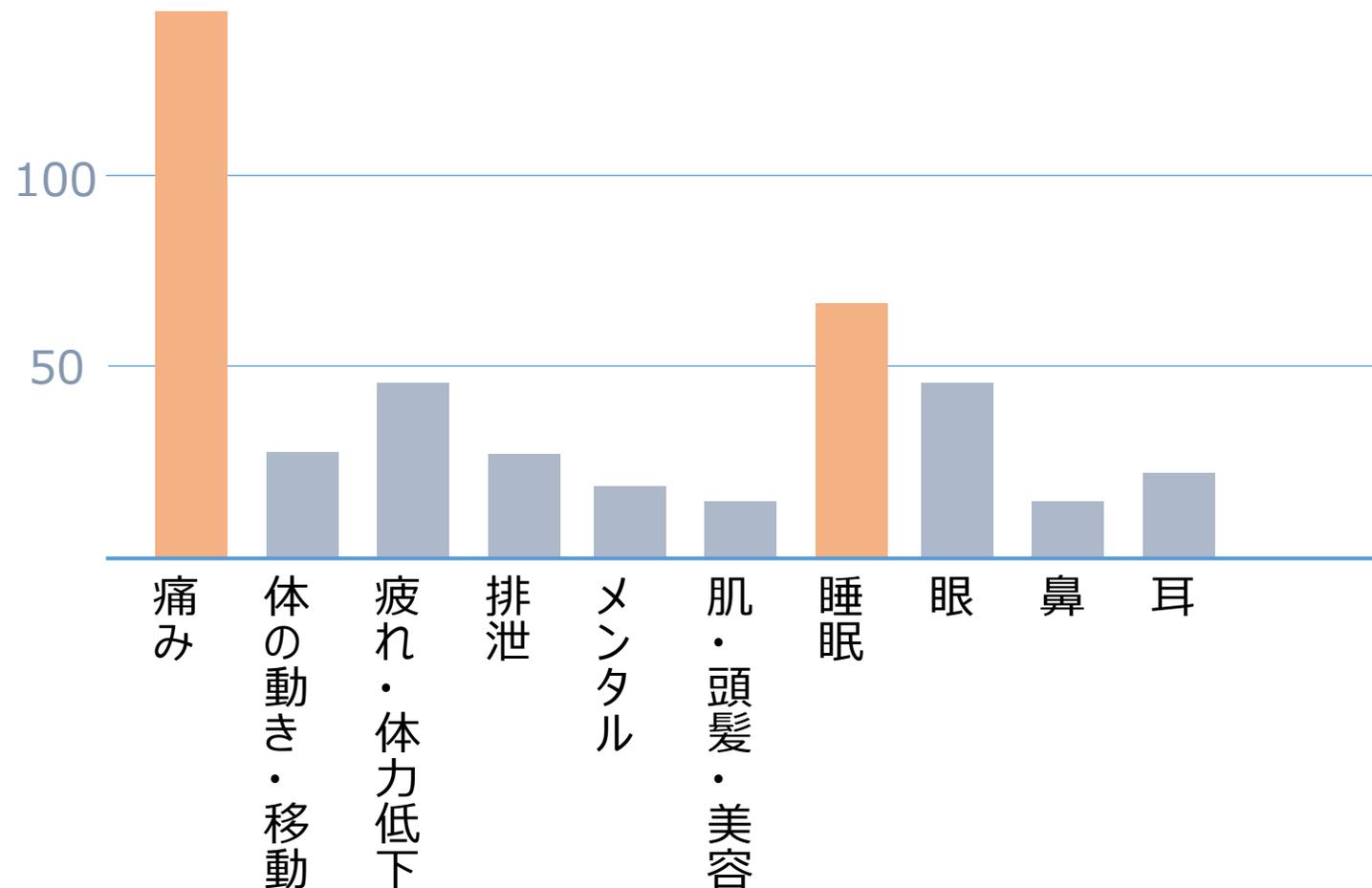


## 労働障害に着目した取り組み

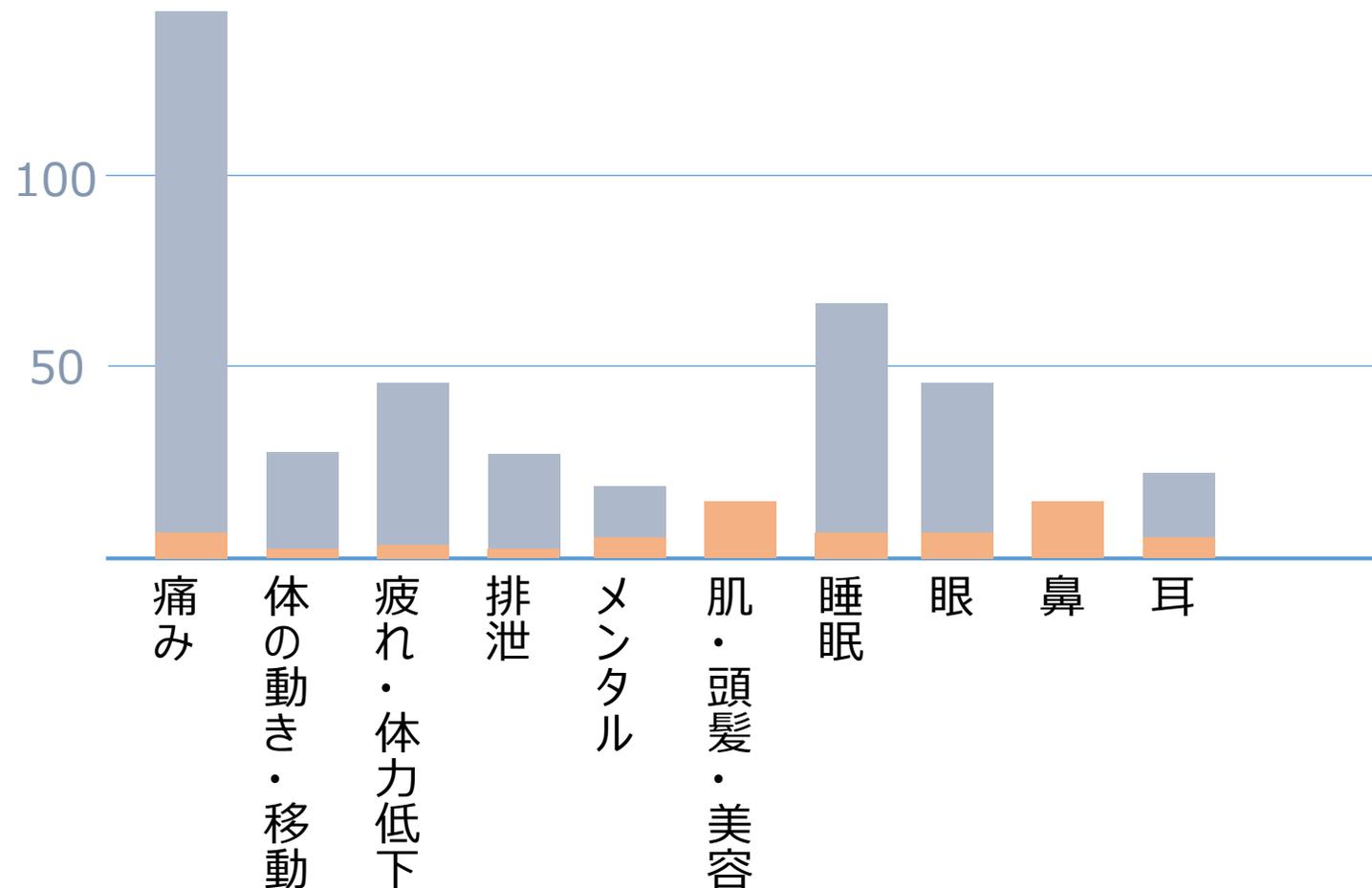
- 産業保健において関心を持たれていなかった疾病、症状
- 業務起因性のない疾患（私傷病）
- 非特異的な症状

オフィスワーカーの腰痛  
花粉症・アレルギー  
慢性疼痛

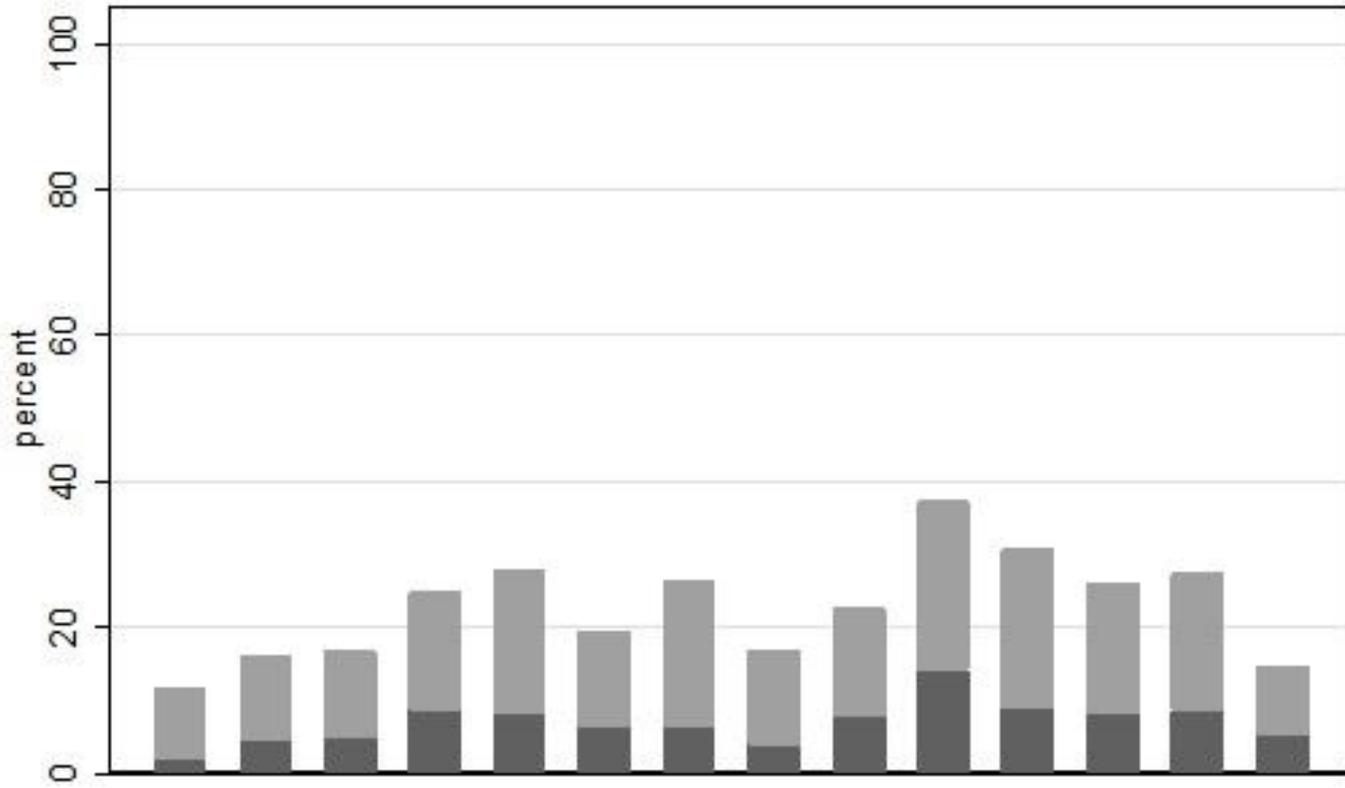
# 自覚症状の種別



# 同じ症状でも、労働機能の程度は様々



# コラボヘルス事業におけるベンチマーク

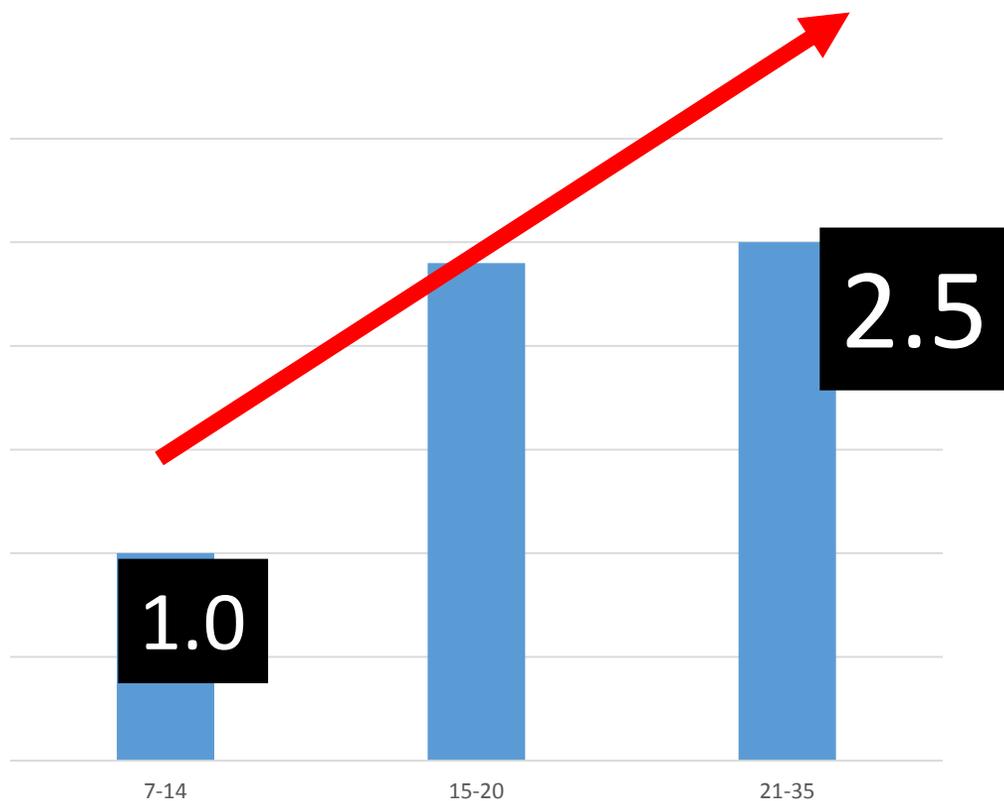


- 14社、約34000人を対象
- WFun高得点者を表示
- 労働機能障害を抱えた労働者の割合が、企業によって異なる。

資料提供：永田智久、他。

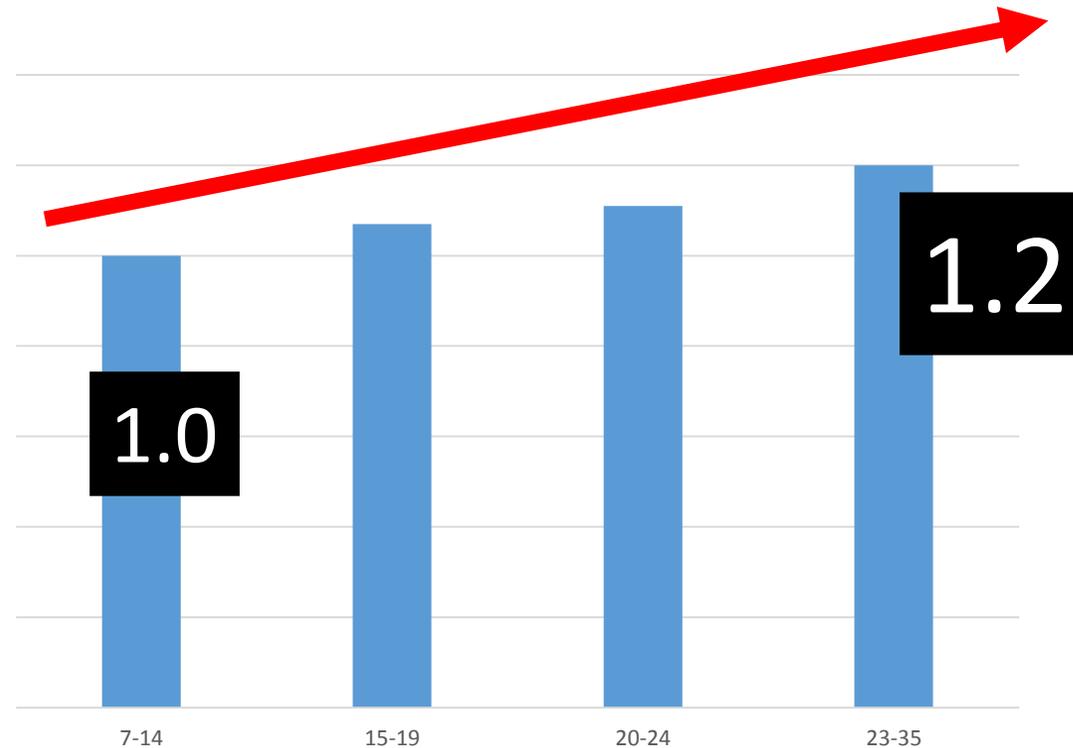
# コホート調査（1300人、1.5年）

## 休職・離職

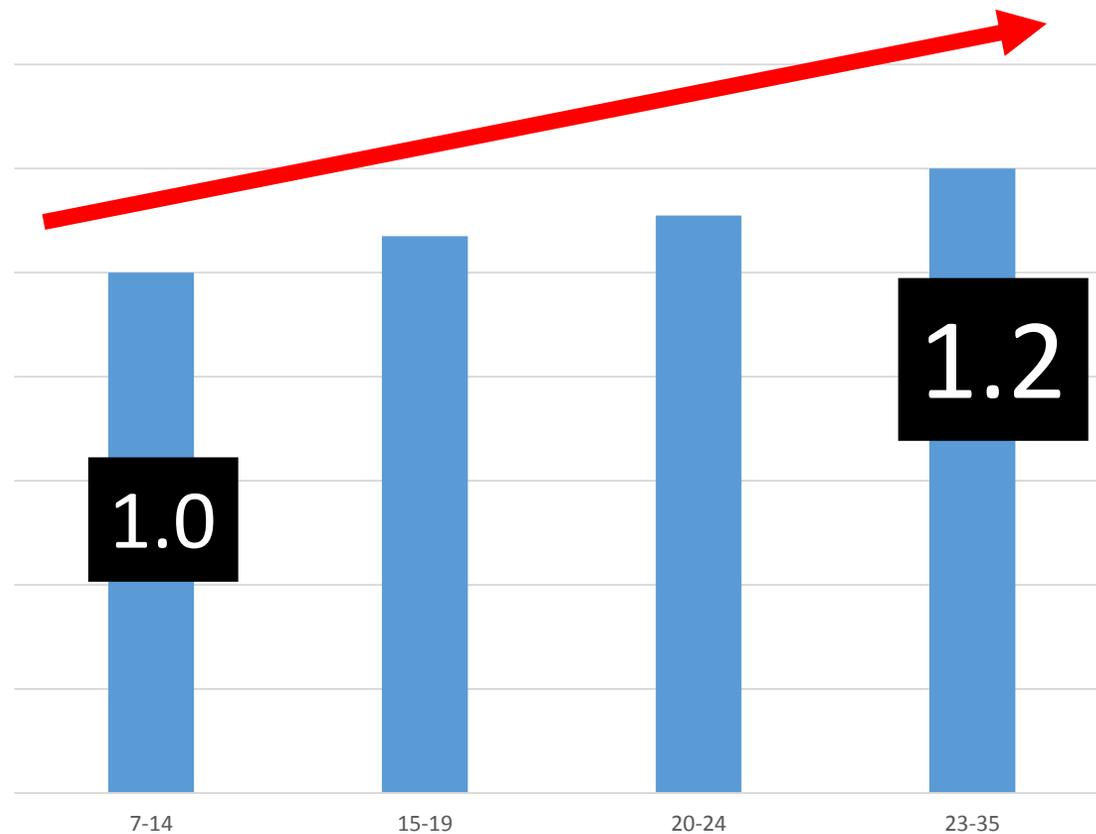


## 欠勤日数

休職するほどでない日常的な症状でも、短期的に欠勤を繰り返している可能性



# 欠勤日数



製造業 1296名  
18ヶ月間追跡

# 過重労働による疲労蓄積との関連

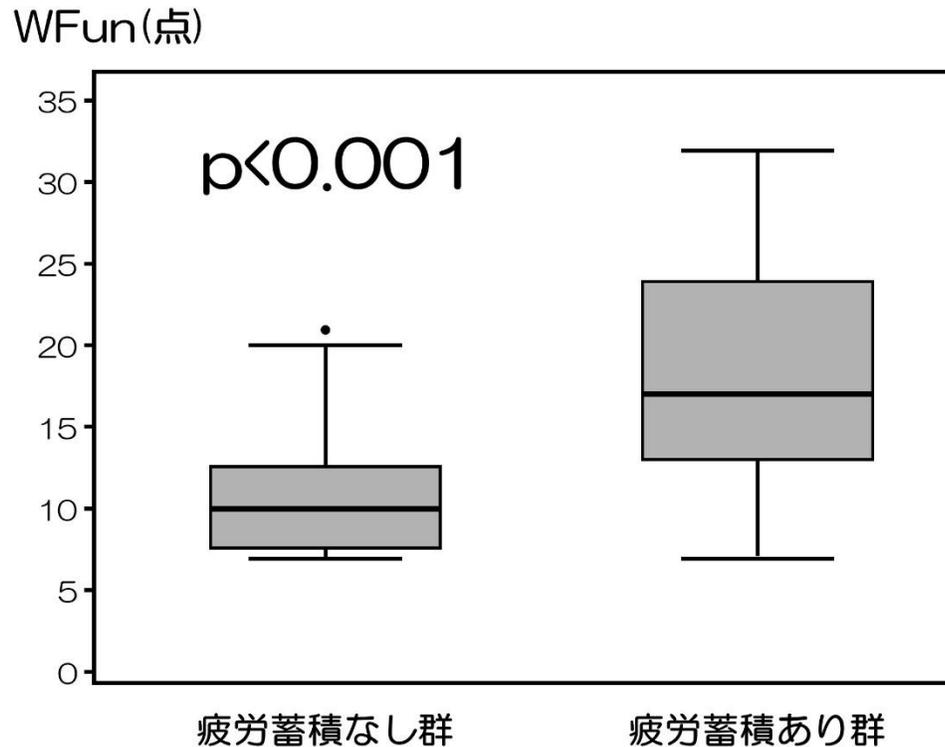
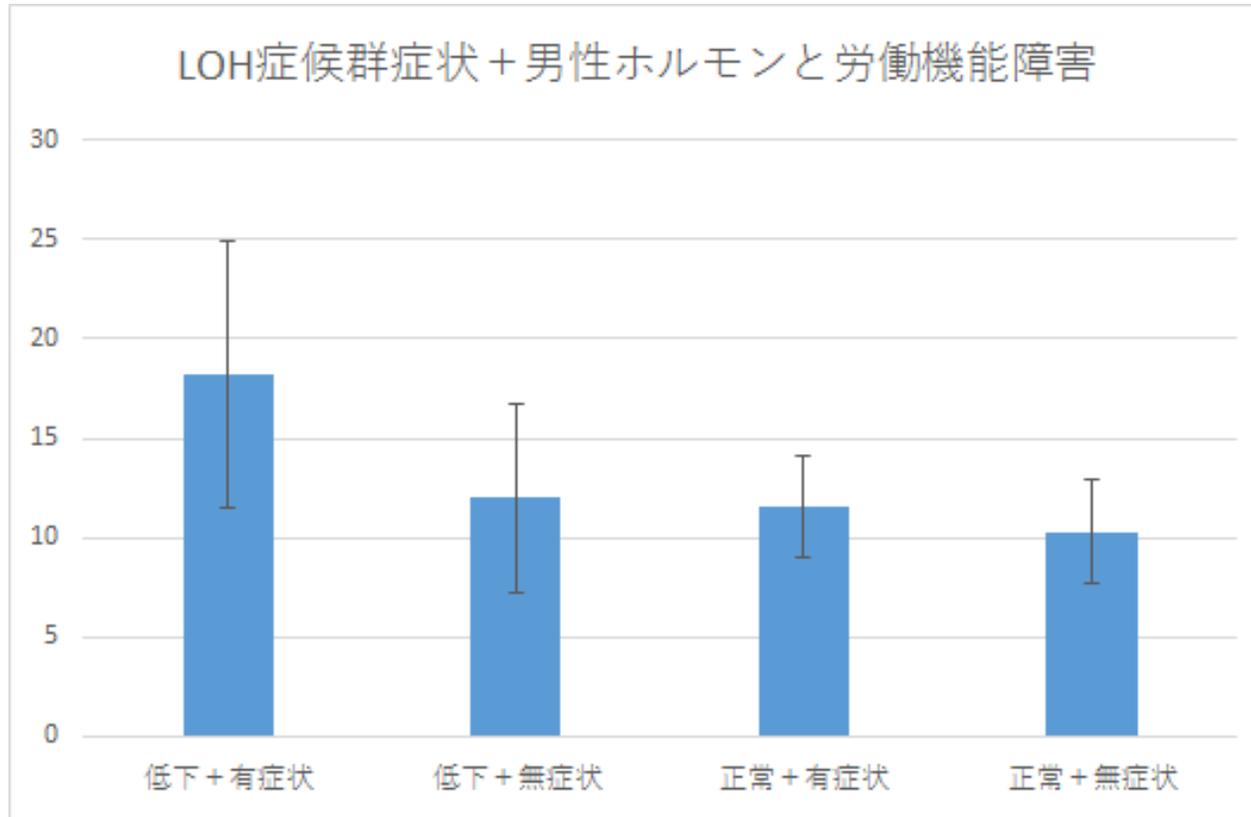


Fig. 1. 過重労働従事による疲労蓄積の有無とWFun

- 80時間/月超の時間外労働を経験した男性労働者75人を対象
- 疲労蓄積なし群33人と、
- やや高い・高い・非常に高いと判定された疲労蓄積あり群42人

戸津崎貴文(みずほ健康保険組合健康開発センター)、他. 過重労働による疲労蓄積と労働機能障害の関連. 第89回日本産業衛生学会, 2016

# 男性更年期と労働機能障害



- 男性労働者を対象に、男性ホルモン（フリーテストステロン）の測定を実施。
- LOH症候群の診断に用いる質問紙のAging male's symptom (AMS)

竹田透、他. 病的な老化による労働への影響に関する研究. 加齢性腺機能低下症候群(LOH症候群)の自覚症状、男性ホルモン値および仕事の影響の関連についての検討. 第89回日本産業衛生学会, 2016